

「小清水赤十字病院の紹介！」

おそらく多くの方がその存在を知らないと思いますが、小清水は北海道の東、オホーツクの地にある人口 5000 人程度の小さな町です。オホーツク海に面しているのですが基幹産業は農業で、主にジャガイモ、小麦、ビートなどを生産しており、小清水原生花園、白鳥の飛来する濤沸湖、リリーパーク（ユリの花が咲く公園）などの観光名所を擁する自然豊かな町でもあります。



オホーツク海の流水



小清水町郊外のジャガイモ畑



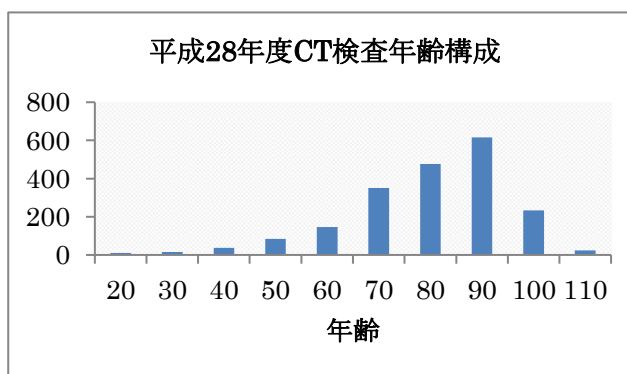
小清水赤十字病院

当院は、内科・消化器内科・循環器内科・整形外科・皮膚科・糖尿病内分泌科・総合診療科、病床数 99 床（一般病床 49 床、療養病床 50 床）、人工透析センター 26 床、地域の住民の方々にご利用いただいております。主に高齢者の慢性疾患、また様々な疾患の初期診療を行う地域密着型の小規模施設です。

放射線技術課は技師 2 名、助手 1 名で構成され、CT 検査、超音波検査、一般撮影、骨塩定量検査、胃バリウムなどの造影検査を行っております。

「Aquilion Prime SP が導入されました！」

前装置が更新時期にあったことから、今回「Aquilion Prime SP」を導入することとなりました。選定においては、最新技術による画質改善や被ばく線量低下を考慮し判断基準としました。また、右の図は平成 28 年度に CT 検査を受けた患者の年齢階層別度数分布図ですが、何と 90 歳台にピークがあり、利用者の多くを高齢者が占めております。ですので、以下のことも、当院にとって大事な必要条件となりました。



- ① 高齢者にやさしい検査でなければならない！
- ② 地元で検査をしたいニーズに応える！

皆さんもご存知のとおり、多くの高齢者は同じ姿勢を保つこと、長い時間呼吸停止することが苦手なので、撮影時間は短いほど負担は少なく、体動の影響も最小限に抑えることができます。Prime の高速性は、この問題を解決してくれています。

また加齢性変化による骨の変形により、仰臥位が困難・両腕の挙上が十分に出来ない方には、ガントリ内の狭い空間で窮屈な思いや無理を強いていましたが、Prime の開口径（780mm）の広さにより、そういった制限が緩和され快適性が向上しました。

今後、冠動脈造影検査にも対応していく予定ですが、地方で移動手段を持たない高齢者にとって、循環器疾患における新しい検査選択の余地が生まれます。

従来よりも「やさしい検査」が実現され、患者様にも、「検査が楽になった」と好評を得ております。

もう一つ使い勝手で気に入っているのが、ポジショニングにおける寝台の動作性能です。従来の装置と比較すると飛躍的に早く移動が可能で、ポジショニングに費やす時間が短縮されました。検査スループットの向上は、一人の技師が複数モダリティを担当する当院の状況において重要で、業務負担の軽減を可能にしております。地味ではありますが、大変重宝している機能です。

以上、短い使用経験で感じた使い勝手のお話しをしました。

今後は、必要に応じた適性画像の描出、被ばく低減による安心・安全な検査の提供など、装置のポテンシャルを最大限引き出せるように、最新技術を駆使しつつプロトコル改善などに取り組んでいきたいと考えております。

アプリケーション担当の方が親切に教えてくれるのも心強いです！

最後に、Prime SP で撮影した画像をいくつか提示して終わらせていただきます。



CT室、平成29年9月20日より稼働しています。

小清水赤十字病院放射線技術課長 岩田 雄一

① 食道がん再建術後の Follow 検査

SEMAR を使用することで心臓ペースメーカーからのアーチファクトを抑制し、上部および頸部食道が観察可能となりました。体内金属対策として有効な技術と感じました！



SEMAR (-)



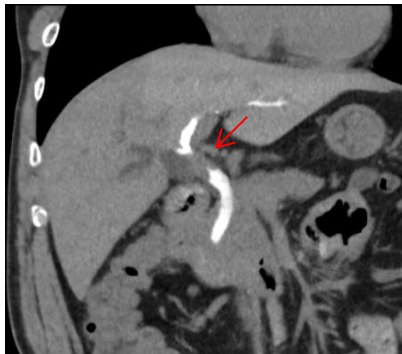
SEMAR(+)

② 上部胆管がん

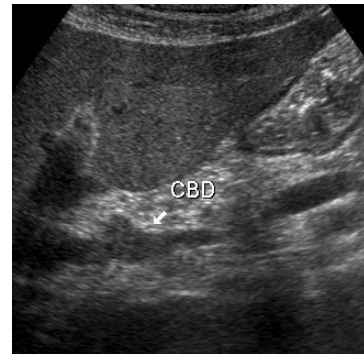
設置後間もなく経験した症例です。高い分解能により、病変が明瞭に描出されています。



造影 CT



DIC-CT



同部位のエコー図